残酷読書会

二〇二五年一月二十五日（土）東京都新宿区

マルグリット・デュラス『ヴィオルヌの犯罪』

次第

0．シノプシス（2分）

私をこの場に拘束し、この場に私を譲り渡すための諸事項。

1．単独：付箋に書き出す（5分）

各自、小説を読んで感じたことや考えたことなどを付箋に書き出す。書き出す内容は理路整然とさせる必要はいっさいなく、キーワードやフレーズなどの断片的な表現でかまわない。書き出すにあたって自身の中で整理を試みる必要もない。あなたの読書行為を経由して放出された小説の断片はこの場における第一の素材となり、このあとの話し合いをもって整理が試みられる。いまはただ、とにかく散らかすこと。書き散らかすこと。

2．二人：身振りでおしゃべり（10分）

ペアをつくる。ペアの相手はこの場におけるおもな共同制作者となる。制作の下準備として、まずはからだを解きほぐす。そのためのおしゃべり、あるいは自己紹介。あなたは言葉を介さずに、からだを使ったジェスチャーのみで、相手との意思疎通を図る。むろん、たまたまこの場で隣り合っただけの者に対し、身振りだけで意思の疎通などできるはずがない。それでも試みる。おたがいに意思の疎通を図ろうとする。その姿勢をつくる。

3．二人：カメラごっこ（10分）

もうひとつ、話し合いに向けた練習を。ペアはカメラ役とカメラ目線のひと役に分かれる。互いに向かい合い、見つめ合う。役割を交代してもう一度見つめ合う。見ることを練習し、見られることを練習する。沈黙のもとで会話することを練習する。

4．二人：自由に話す（15分）

小説について、ふたりで自由に話し合う。付箋に書き出された内容は話し合いの素材となる。たがいに付箋を見せ合い、書き出されたことを説明したり、膨らませたり、つなぎあわせたりする。話すことを経てさらに散らかしてもよく、また、ときに沈黙を織り交ぜてもよいかもしれない。種をまくように、あるいは種に水を与えるように言葉をつなげる。

5．二人：インタビュー（10分）

ふたりで話し合った内容を素材に、こんどはインタビュー形式で対話をする、ペアは聞き手と話し手に分かれる。聞き手は質問を繰り返し、相手が小説を経て考えていることの理解を深める。話し手は質問を受けながら、みずからが小説を経て考えていることの理解を深める。焦らずに回答してよい。沈黙は味方につけること。

6．休憩（10分）

束の間の休息。

7．二人→全体：演じる（15分）

ここまでペアで話し合った内容を一度全体に共有する。ただし、あなたが発表するのはペア相手の感想である。自分の感想はペア相手に任せること。そしてあなたは相手の感想を語るとき、それがあたかも自らの考えであるかのように、相手を演じながら語ること。むろん、相手の言葉どおりに語る必要はない。あなたの解釈によって演じられるのであり、相手は語っていなかったがあなたには聞こえた言葉によって演じられることだろう。なお、相手の身振りや口調を真似する必要はない。あなたはあくまで相手の言葉の媒介者として存在する。
発表を聴いているときは、発表された感想に簡単なコメントを述べる。気になったこと、おもしろいとおもったこと、連想したこと。そのひとの感想からどんな会話が展開できるかという観点でコメントをつける。なお、無理に述べる必要はない。

8．二人：盗み聞き（35分）

ひととおり共有された感想を土台に、再度ペアで話し合う。話し合いはひと組ずつ行われる。話し合いを行うペアとそれ以外の者らは何らかの板で仕切られる。それ以外の者らは話し合いを盗み聴く。盗み聞きながら感じたり考えたりしたことがあれば手元の紙にメモしておく。

9．全体：自由に話す（60分〜）

小説について、自由に話し合う。

10．二人：終幕（5分）

最後にペアに戻る。この場で話し合われたことの感想を述べ合う。相手をねぎらうことも忘れないこと。